

目 次

| | |
|----------------------------------|----|
| 選定理由書 | 1 |
| 平成19年度「薫風・満天フィールド交流塾」の活動状況一覧 | 2 |
| 「薫風・満天フィールド交流塾」の学生への案内・入塾申し込み書 | 3 |
| 「活動メニュー」の案内と申し込み用紙（第4回活動メニューのもの） | 4 |
| 「活動報告書」（第1回～3回活動メニューのもの） | 6 |
| 平成20年度「活動メニュー（案）」 | 9 |
| 「薫風・満天フィールド交流塾」の運営方法、運営チーム構成 | 10 |
| これからの「薫風・満天フィールド交流塾」 | 13 |

平成 19 年度

「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」

選定理由書

| | |
|---|---------------------|
| 大学・短期大学・ 高等専門学校名 | 秋田県立大学 |
| プログラムの名称 | 薫風・満天フィールド交流塾が育む人間力 |
| (選定理由) | |
| <p>秋田県立大学においては、学生支援を行う教職員の資質向上のための FD・SD 活動に積極的に取り組むなど、包括的な支援の実効性確保のための取組を着実に実施されています。</p> <p>今回申請のあった「薫風・満天フィールド交流塾が育む人間力」の取組は、大学が保有する豊かな環境資源を活用し、自然を教育者と見立て、若者の人間力を育むことをねらっているものであり、「人間力向上」という新たな社会的ニーズに対応した地方大学ならではの特色ある学生支援であると考えられます。</p> <p>本取組は、学生に自然や農業との交流で「遊び」を経験させ、その「遊び」を起点として、人や社会に対する様々な「気づき」を持たせ、最終的に「人間力向上」を図るというものであり、この「遊び」に向けたエネルギーを利用して、様々な「気づき」に到達させようとするところに、本取組のアイディアがあると考えられます。</p> <p>地域との連携、農学系サークルの大学間ネットワークの構築など、学外との連携も計画されており、この取組の社会的効果が期待され、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。</p> | |

平成19年度「薫風・満天フィールド交流塾」の活動状況

(平成20年2月18日作成)

1. 活動メニュー等

| 月 日 | 内 容 | 説 明 |
|--------------|------------------------------|--|
| 12月9日 | ハタハタ満喫体験 薫風・満天フィールド交流塾開塾式 | 男鹿市北浦漁港見学、大潟キャンパスフィールド教育研究センター(大潟キャンパスFC)で試食 大潟キャンパスFCで実施 |
| 12月16日 | ハタハタ鮭の製造体験 | 武田水産株式会社工場内で製造(男鹿市北浦) |
| 12月23日 | アイスキャンデルづくり | 大潟キャンパスでつくる |
| 12月24日 | アイスキャンデル飾り付け、点灯 | 大潟キャンパス学生寮前で実施 |
| 1月19日 | ハタハタ鮭試食 きりたんぼ鍋づくり体験 | 12月16日製造したハタハタ鮭の試食(大潟キャンパスFC) きりたんぼづくり、きりたんぼ鍋づくり試食(大潟キャンパスFC) |
| 2月2,3,15,16日 | 薫製作り | 本物の薫製作り(大潟キャンパス) |
| 2月15,16日 | 他大学との交流 | 宮城大学自然研究部と本学のサークル「草っこ」等が交流(大潟村、大潟キャンパス) |
| 2月16日 | 交流塾雪まつり | クロスカントリースキー、かまくらづくり、石焼き鍋作り体験(大潟キャンパスFC) |
| 春休み期間中 | 学生が希望する活動支援 | 釣り、山歩き等季節に応じた活動支援(地域、大潟キャンパス) |

注)大潟キャンパスにはアグリビジネス学科棟(3,4年次)およびフィールド教育研究センターがある

2. フォーラム等の参加

| 月 日 | 内 容 |
|---------|--|
| 2月9,10日 | 平成19年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム(横浜)」参加、ポスター発表 |
| 2月19日 | 文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」地域別意見交換会「東北地区」に参加・発表 |

3. 新聞等での記事掲載

| 月 日 | 新聞社 等 | 説 明 (記事タイトル) |
|--------|-------------|---|
| 12月7日 | 記者会見 | 河北新報社・秋田魁新報社・読売新聞社が取材 |
| 12月8日 | 河北新報社 | 学生の「遊び塾」開講 あす・秋田県立大 |
| 12月8日 | 秋田魁新報社 | 遊びで「人間力」育成 県立大が新プログラム |
| 12月8日 | 読売新聞社 | 「遊び」活用 体験学習 県立大 かまくら作りやクロスカントリー |
| 12月9日 | 秋田放送(ABS)取材 | ハタハタ満喫体験を取材 |
| 12月15日 | 秋田魁新報社 | 県立大・体験プログラム ハタハタ料理に挑戦 学生15人男鹿で漁港も見学 |
| 12月17日 | 秋田放送(ABS) | ニュース(リアルタイム)放映 |
| 2月1日 | 秋田県全戸配布広報紙 | 特集 薫風・満天フィールド交流塾が育む人間力～秋田県立大学～ |
| 2月14日 | 旺文社 | 大学受験「バスナビ」HP 学校注目情報 学生の行動力や社会性を養う「薫風・満天フィールド交流塾」秋田県立大学 |
| 2月18日 | 秋田魁新報社 | 県立大 雪まつり かまくら体験 大潟村 宮城大からも参加 |

4. 会議

| 月 日 | 内 容 |
|--------|----------------|
| 11月9日 | 第1回拡大塾運営チーム会議 |
| 11月16日 | 第2回拡大塾運営チーム会議 |
| 11月26日 | 第3回拡大塾運営チーム会議 |
| 11月28日 | 第1回交流塾本部会議 |
| 12月3日 | 第4回拡大塾運営チーム会議 |
| 12月7日 | 第5回拡大塾運営チーム会議 |
| 12月17日 | 第6回拡大塾運営チーム会議 |
| 12月21日 | 第7回拡大塾運営チーム会議 |
| 1月7日 | 第8回拡大塾運営チーム会議 |
| 1月18日 | 第9回拡大塾運営チーム会議 |
| 1月25日 | 第10回拡大塾運営チーム会議 |
| 1月28日 | 第1回交流塾実施委員会会議 |
| 2月1日 | 第11回拡大塾運営チーム会議 |
| 2月14日 | 第12回拡大塾運営チーム会議 |

記入年月日 年 月 日

氏名: 学科: 学年: 学籍番号:

希望する分野(該当する分野の番号を○で囲む)

1. 自然・農との交流 2. 人との交流(サークル活動) 3. 社会との交流 4. 社会への発信

希望する具体的な内容

(記入例:星座の観察をしたい)

希望する活動に必要な資材など(できるだけ具体的に)

(記入例:星の図鑑、天体望遠鏡)

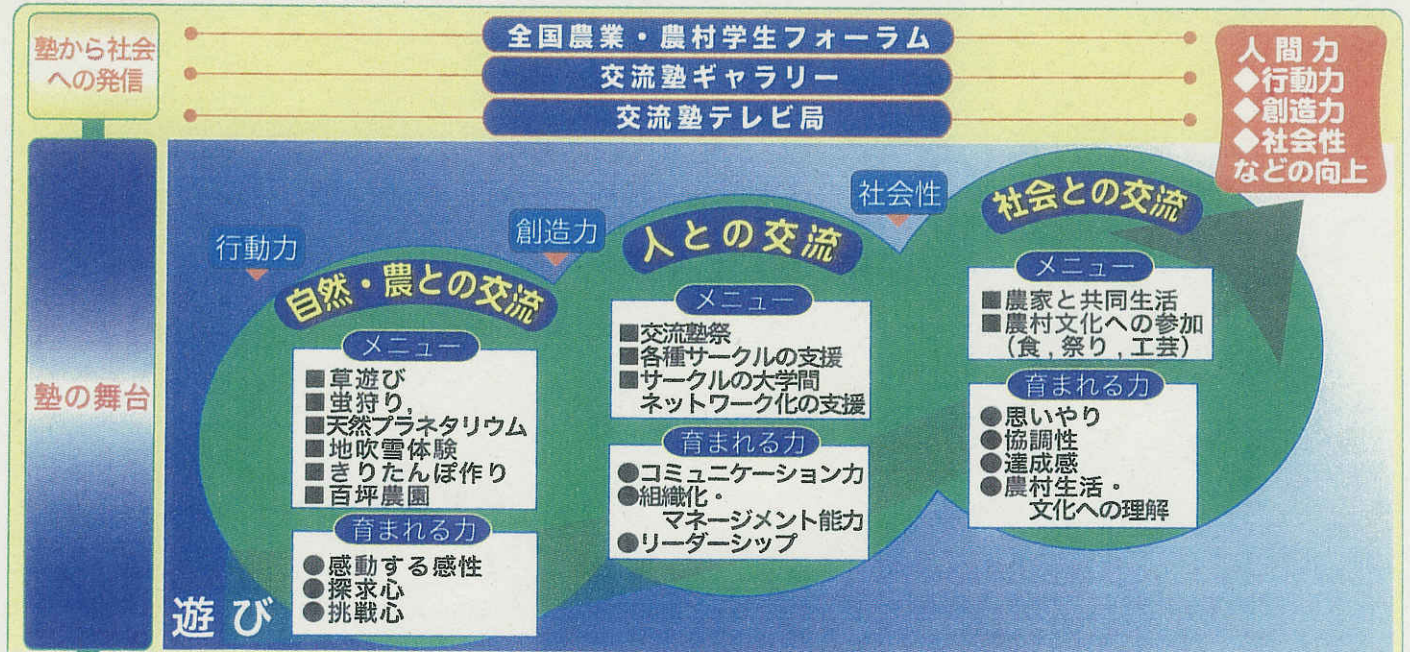
活動をいっしょに行うことを希望する教職員がいる場合、その人の氏名と所属

氏名 所属

連絡先(Eメール、携帯電話等)

清新寮の方は部屋番号を記入:部屋番号

塾生には、「活動報告書の作成」、「塾生活動報告会への参加」および「人間力向上に関する評価への協力」などをお願いすることになります。



提出先: 秋田キャンパス/事務室「薫風・満天ポスト」 大湯キャンパス/薫風・満天フィールド交流塾事務局(安田)

文部科学省

新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム

公立大学法人

秋田県立大学

平成19年度からスタート

大学に「遊び」の場ができます

薫風・満天フィールド交流塾

第4回塾企画活動メニュー

活動内容 ハタハタ寿司試食体験

きりたんぽづくりときりたんぽ鍋調理試食体験

活動日 1月19日(土)

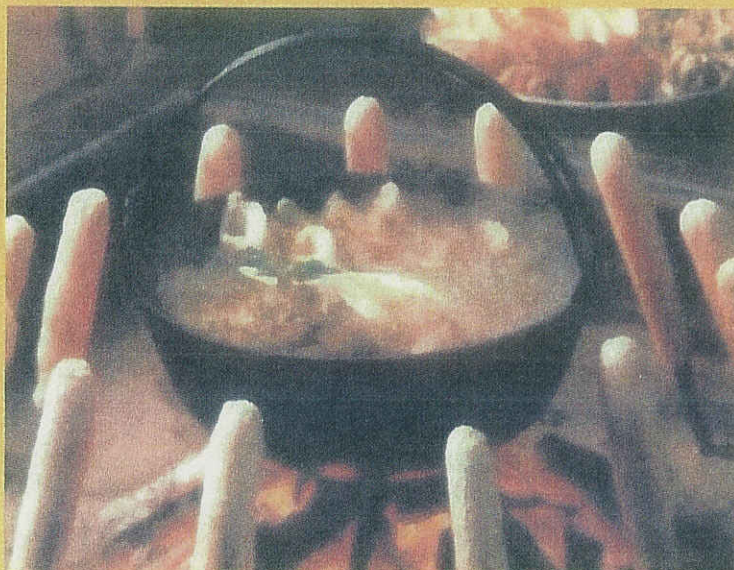
活動場所 大湯キャンパス

送迎バス 追分駅から午前9時30分出発

(センター試験のため学校内には立ち入りできません)

概要 「第2回活動メニューハタハタ寿しの製造体験」でつくったハタハタ寿しの試食。きりたんぽづくり、きりたんぽ鍋づくりと試食

申込締切 1月18日(金)



郷土食づくりと試食体験をしてみませんか。

活動内容 ハタハタ鮠の試食 たんぽときりたんぽ鍋づくり・試食

活動日 1月19日(土) 10時～14時頃

出発時間 追分駅 午前9時30分(バスで送迎いたします。)

活動場所 大潟キャンパス・フィールドセンター(集合時間:午前10時)

概要

- ・ツバ釜でご飯を炊いて、たんぽづくりを体験する。
- ・きりたんぽ鍋をつくる。
- ・きりたんぽ鍋完成後、12月16日に塾生が製造したハタハタ寿しと一緒に試食する。(お昼頃を予定)
- ・参加料は無料です。

※ハタハタ寿しはたくさんありますので、お裾分けがあるかも?欲しい方は入れ物を持参した方が得かも?

申込締切 準備の都合上、1月18日(金)午前中とします。

(事務局へ必着のこと。電話・メールでも可。)

今回は、冬休み、今後の日程から実施日が限定され、とりまとめ期間が短くなっていることをご了承ください。

参加を申し込まれる方は、下記の申込書に記載のうえ事務局へお届けください。

(電話:0185-45-9651

メールアドレス:kunpu-manten@akita-pu.ac.jp)

※先般のハタハタ鍋の調味料としてしょつつるを使用しましたが、しょつつる製造元の諸井秀樹さんから秋田キャンパスで「しょつつるから秋田の食文化を考える」としての講演がありますので、受講をお奨めします(専門基礎科目「食文化と地域」の講義にて実施)。日時は1月18日(金)午前8:55～9:20、場所はA303です。受講するにあたり申込みは必要ありません。直接A303へお越しください。

切り取り線

「郷土食づくりと試食体験」参加申込書

| 氏名 | 学科 | 学年 | 学籍番号 | 連絡先(携帯番号) | メールアドレス | 送迎バス利用 (いずれかに○) |
|----|----|----|------|-----------|---------|--------------------|
| | | | | | | 有 無 |
| | | | | | | 有 無 |
| | | | | | | 有 無 |

送迎場所:今回はセンター試験当日となるため、バスの出発場所は追分駅としましたのでお間違えの無いようにしてください。

※参加者の個人情報、薫風・満天フィールド交流塾活動メニューの参加者を取りまとめ、連絡調整に使用するものです。他に提供することはありません。

薫風・満天フィールド交流塾

第1回活動

平成19年12月9日実施

ハタハタ鍋満喫体験 活動報告

(写真①)前日から沖止め(網を揚げ禁漁する)となり、9日当日は水揚げを見学することができなかったが、ハタハタの生態、産卵習性、漁獲方法、水揚げ方法、選別方法、出荷方法及び秋田県におけるハタハタの食文化としての位置づけ等について説明を受けた。

現場での選別作業、ハタハタ網からブリコを外す作業、入札場所でハタハタの荷姿を見学した。新鮮なハタハタと鮮度の悪いハタハタの区別について説明を受け荷姿を見ることで実感した。漁師との質問や雑談等の会話でハタハタ漁について学んだ。

(写真②)学生が薪割り・炊飯グループ、鍋準備グループ、ハタハタ調理グループに分かれ作業を体験した。薪を燃料としてツバ釜で炊飯したが、電子ジャーで炊いたごはんより圧倒的にツバ釜のほうがおいしいと評価された。ハタハタ鍋は、味噌味とショウツル味をつくり、双方を味わった。個人によって好みに差異がありました。初めてハタハタを食べる学生は食感に戸惑いもあったようだが、慣れるにしたがっておいしく食べていたようだ。

(写真③)食事後、薫風・満天フィールド交流塾開塾式を行った。学生が進行をつとめ、それぞれの立場から意見・期待・要望が述べられた。最後に全員で後片付けを行い終了し散会した。

参加者数 学生14名、教職員7名

活動評価

大変楽しかった8名、楽しかった7名、普通0名、あまり楽しなかった0名、楽しなかった0名

活動成果(意見)

- 説明や現地の人たちの様子や会話から、秋田(北浦港)におけるハタハタ漁の実態を良く理解できた。捨てられるハタハタがかわいそうだった。
- 薪割り、炊飯、鍋づくりとハタハタ料理を楽しむ過程で身近な作業を体験できた。
- ツバ釜で炊いたご飯は本当においしかった。良い体験ができてありがたかった。
- このような体験は有益で、私の成長と思うので、意欲的に取り組みたい。
- 知らない文化を学ぶことができたし、秋田伝統の味を体験できてよかった。こんなに立派なハタハタは見たことも食べたこともなかったので、とても嬉しかったし良い経験になった。
- 皆で教室の外で学べるのがとても楽しかった。
- 漁港の人たちとふれあってみて、昔真剣にハタハタを取っている人だと感じ、また良い経験になったと思う。収入の多い人は2,000万円もあると知って驚いた。
- 魚をさばるのが初めてだったので、少し緊張した。さばくの限らず今日は初めて体験することばかりで興味深く面白かった。友人の誘いで参加した活動でしたが、とても良かった。
- ハタハタ鍋は、まだ慣れるのに時間があると思った。新しいことにふれるのは、自分の新しい見解や考えを得ることができるので、このような活動にはできるだけ参加したいと思った。
- 「ハタハタは馬の鼻息で食べる」そのくらいさっと煮るだけで食べることができる。こんなおいしい魚が食べられなくなるのは困るので、毎年食べられるように保護していくことも大事だと思った。

